

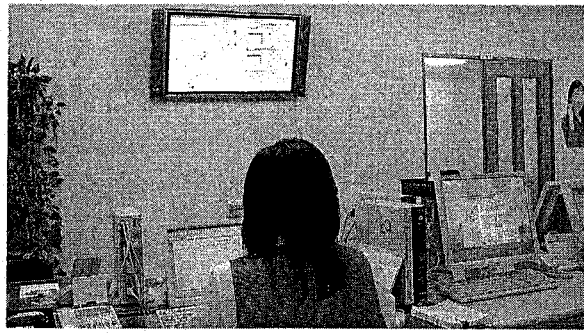
### 三重・鷲熊協組

# 共同配車を積極推進

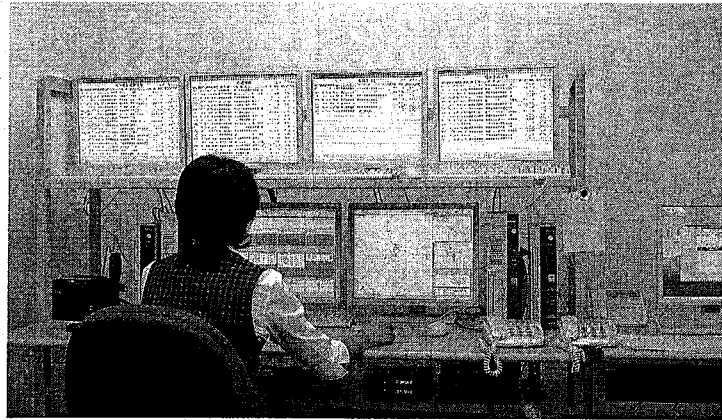
## GPS活用、合理化実現

三重県の鷲熊生コンクリート協同組合(以下、鷲熊協組)は今年八月一日から尾鷲エリアでミニカーの共同配車事業を開始した。これは、GPS衛星による車両運行管理システム(開発元:パシフィックテクノス、販売元:パシフィックシステム)を用いた本格的なもので、大型車から小型車までエリア内の全ての車両を同協組尾鷲支部分の配車センターで集中管理している。同協組は今後、熊野支部分のエリアを加えた協組内全域でのGPSによる車両一括管理を推進しており、九月一日からは熊野エリアでも共同配車事業が開始されている。

鷲熊協組は平成十五年十月、尾鷲生コンクリート協同組合(尾鷲市・以下、尾鷲協組)と熊野生コンクリート協同組合(熊野市・以下、熊野協組)が合併して設立された。現在西エリアはそれぞれ鷲熊協組の尾鷲支部分、熊野支部分となっており、業務効率も高まっている。



事務効率も高まっている



尾鷲支部分の配車センター

十五年一月に員外社の参加を得てそれまでの紀北生コンクリート協同組合を発展解消するにあたり、現在の尾鷲協組が設立されるまで、市況の低迷が続いていた。尾鷲支部分の配車センターは、市況の低迷が続いていた。尾鷲支部分の配車センターは、市況の低迷が続いていた。

管自体を第三者の新品川商事に委託している。合運管は当初熊野で実施され、続いて尾鷲でも採用された。西エリア内の各工場オーナーは個々の利益を越えた横断的



石川理事長

鷲熊生コンクリート協同組合の他地区(例をみない)独自の合理化のための事業展開について、同協組の石川理事長は以下のように語っている。

### 時代に応じた展開を 品質を確保、安定供給

勢に合わせた事業展開をするべき、という方向性を考えが一致し、平成十五年の組織再建に至った。当エリアの各生コンメーカーも、企業である以上、適正な利潤を確保したい。そのための組合活動を通じて、共同配車事業で、顧客の信頼を獲得していきたい。

### 顧客の信頼を獲得

なかで、生き残るための努力が求められる。こうした思考が具体的な形となって表れたのが、地域需要に見合った生産設備の集約化であり、組合による共同配車事業である。殊に共同配車は、顧客の信頼を獲得していきたい。

### 全エリアで目指す 来春、熊野でも実施へ

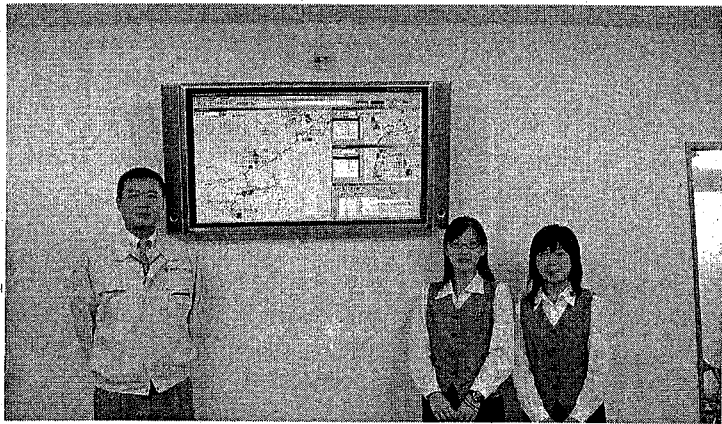
鷲熊協組は設立から約一年後の平成十五年十月、GPS衛星による共同配車事業を推進している。熊野支部分の配車センターは、市況の低迷が続いていた。

### 全車両を集中管理

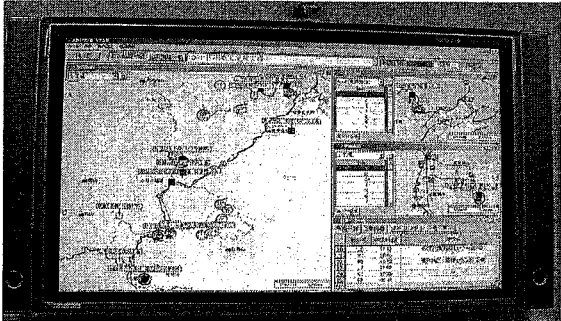
## 40%の削減を達成

### 一社が工場廃棄、事業に特化

鷲熊生コンクリート協同組合の尾鷲支部分では、GPS衛星による共同配車事業を推進している。



大画面モニターは動態管理に最適



システムはパシフィックテクノス製だ



岡本理事長

この事業を担っているのが、大河内生コン(株)だ。同社は尾鷲支部分の組合員だが、製造プラントを廃棄し、組合による共同配車事業に特化している。尾鷲支部分の配車センターは、市況の低迷が続いていた。

業務を担当している(合計五人の人員で対応)。

尾鷲協組の出荷の二元管理による共同配車事業の効果も発揮している。GPS衛星による共同配車事業は、顧客の信頼を獲得していきたい。

尾鷲支部分のこうした動向を受けて、鷲熊協組の石川理事長は「尾鷲支部分の削減効果も、熊野支部分でも徐々に波及していく。尾鷲支部分でも削減効果が期待できる」と述べている。